

2020年「ラウダート・シの特別年」(2020・5/24～2021・5/24)の呼びかけを受け、共同体の集まりの中で「意識を高め、身の周りの小さなこと、出来ることから実行しよう。でも無理をしないで。」という確認を行った。

- ① 身の周りのことから→外への働きかけなど大々的なことはできないので、小さくても心を込めて、自分達のできることをする。その時、注意を置いたのが「無理をしないで」ということだった。平均年齢が80歳を越えるこの共同体では、修道会初期の貧しい時代を生きて来られた方々が大半で、厳しく自分を律する傾向があり、例えば暑い夏に冷房を使わず、そのため熱中症で入院ということもあった。故に、各自、自分のペースに合わせて行うこと、他の人を非難しないことを基本とした。
- ② 意識を高める→その努力として本部から提供されたラウダート・シ関連の映像で学んだり、又お隣の浦上修道院で上映された環境問題のビデオによる勉強会に参加して「祈らねばねー」と、共同体全体の意識を高めたりした。

<ナザレトの小さな取り組み>

A:「できることから」を基本に、具体的なとりくみのいくつかを紹介します。

① 緑のカーテンなど緑化への努力

庭の係りの姉妹を中心に、ヘチマやゴーヤなどで暑さ対策としての緑のカーテン作りに挑戦している。副産物として実ったゴーヤは食卓に、ヘチマはヘチマ水を作り、喜ばれている。刺激を受けた他の姉妹も野菜ウリの栽培に挑戦し、小さなウリ2個を収穫し、漬物にして皆で分かち合ったりもした。ちなみに庭の管理に余念のない姉妹は、庭一杯に花を咲かせ、聖堂や玄関に飾り、姉妹や来客の癒しに貢献している。



② 新聞、チラシ他、資源の再利用の工夫

- ・ 高齢の姉妹がリハビリも兼ねてチラシでゴミ箱を折り、新聞はばらしてゴミの水分吸収などに利用し、大いに助かっている。包装紙は、姉妹の1人が、こちらもリハビリを兼ねて小袋を作り、隣の幼稚園の教材用に届け、感謝されている。
- ・ パンや菓子のビニール袋は、ゴミ袋に使うなど再利用し、牛乳パックはもちろん、ラップの箱、チョコの箱に至るまで紙類はきれいに整理して古紙の回収に出し、印刷物も裏紙をメモに使うなど工夫し、資源をムダにしないよう心掛けている。
- ・ ゴミの出し方も野菜や果物の水分を減らし、ペットボトルは潰して出すなど、処分に関わる人が働きやすいように心を配る。それは大いなる愛の行いでもある。

③ ラジオ体操に励む

毎朝、ナザレトでは「ラジオ体操第 1〜」と朝食前にラジオ体操の曲がかかる。足が、腰がと全員が痛みを抱える共同体なので、最も簡単に出来るリハビリとして、朝食の準備の時間を利用してラジオ体操を行い、健康管理に努めている。これは最もナザレトらしい取り組みかもしれないが、エレベーターの利用を減らし通院のためのバス、電車、車の利用を減らすことで CO2 削減という環境問題にわずかながらでも協力する。



④ 食事関係の工夫

この恵まれた日本の社会の中でさえ、3度の食事をきちんと食べられない子供達がいるというニュースが度々聞かれる中、自分達にできることとして、特別な断食をするよりも、出された食事を出来るだけ残さず感謝して頂くことによって、過剰な食品の利用を減らし、少しでも援助の必要な人に物資が届くように心がける。

- ・また少人数の共同体なので高齢や病気など、各自の都合に合わせ、食べる量や食べられない食材を取り分けるなどの配慮で食品ロスを減らす一方、筍ご飯、赤飯、ふかし芋等々、季節や祝日など食が進むよう工夫して下さる炊事の姉妹の努力が有り難い。
- ・食材を大切にするために野菜など新聞で包んで冷蔵庫に入れるなど工夫し、又、頂いた夏みかんでマーマレードを作ったり（サクランボ、梅、桑の実などのジャム作りにも挑戦）、ダイコンやキュウリで漬物を作ったりして食材を活かすよう励んでいる。

⑤ 毎日の生活の中での工夫、サポート

洗剤や水の使い方に気を付ける。エアコンや電気を 15 分以上不在にする時は消す。不要なコンセントは抜く等、毎日の生活の中で出来る工夫であるが、高齢化が進むナザレトでは、どうかすると消し忘れ、閉め忘れが多発する。「だれね？」と犯人探しをするのではなく「あら忘れとるよー」と気付いた人が消すなど、互いをサポートしあうこともこれからの時代のエコライフであり、互いに家族として生きる知恵ではないだろうか。

B：忍耐強く、信頼の内に祈る

地球温暖化に伴う自然災害が、日本の台風や洪水だけでなく全世界で大きな被害をもたらしている。被災地の後片付けに行くのもままならない私達にとって唯一できるのは、災害の中で苦しむ人々のため、またその支援にあたる方々のため、また弱い立場の人々が見捨てられることのないよう、より良い政治が行われることを祈ることである。今、猛威を振るうパンデミックと合わせ、日々のロザリオや昼食後には会のためとコロナの収束のために地道に祈り続けている。次の教皇の言葉に励まされながら。

『このパンデミックの中でエゴイズムという悪質なウイルスと戦い（自分の国さえワクチンが手に入ればよいなどのエゴイズム的ウイルス）、「正義と愛と連帯という必須の抗体」を手に入れるため、ともに暮らす家・地球で（ラウダート・シンの精神）ともに暮らす一つの家族となるために、より堅固な愛の文明を築きましょう。その有効な手段、武器は、日々の地道な祈りと、ひっそりと行われる奉仕なのです。』（「パンデミック後の選択」教皇フランシスコより）